

氏名 秋定 直樹
授与した学位 博士
専攻分野の名称 医学
学位授与番号 博 甲第 6310 号
学位授与の日付 2021年3月25日
学位授与の要件 医歯薬学総合研究科 機能再生・再建科学専攻
(学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目 PD-L1 expression in tongue squamous cell carcinoma
(舌扁平上皮癌における PD-L1 発現解析)

論文審査委員 教授 松川昭博 教授 阪口政清 准教授 大内田 守

学位論文内容の要旨

目的：本研究は、舌扁平上皮癌（SCC）を解析し、PD-L1 発現と臨床予後の相関関係を評価することを目的とした大規模な症例研究である。これまでのところ、本研究は舌扁平上皮癌における PD-L1 発現に関する最大の症例研究である。

方法：本研究は 121 例の舌扁平上皮癌を解析した後ろ向き観察研究である。パラフィン包埋切片と臨床データを取得し、それぞれを PD-L1 による免疫染色を行った。

結果：121 例中 11.6%に 50%以上の PD-L1 陽性細胞が含まれており、そのうち 57.1%はリンパ節転移を伴う予後不良症例であった。また、リンパ節転移を伴う T1/2 病変のうち、PD-L1 発現が高い症例は、PD-L1 発現が無い症例に比べて無病生存期間が有意に短かった ($p=0.018$)。

結論：舌扁平上皮癌における PD-L1 の高発現は、より進行した病期と無病生存期間に関連していることを示している。PD-1/PD-L1 阻害剤は、PD-L1 の発現が亢進した舌扁平上皮癌に対するアジュバント治療の可能性があると考えられる。

論文審査結果の要旨

本研究では、舌扁平上皮癌における PD-L1 発現と臨床予後の相関関係を評価するため、121 例の舌扁平上皮癌を用いて症例研究を行った。免疫染色の評価方法としてカットオフ値を 50%に設定して行った。その結果、121 例中、11.6%で PD-L1 陽性となり、うち 57.1%はリンパ節転移を伴う予後不良症例であることを見いだした。また、リンパ節転移を伴う T1/2 病変のうち、PD-L1 発現が高い症例は、PD-L1 発現がない症例に比べて無病生存期間が有意に短いことを明らかにした。以上、大規模調査により、舌扁平上皮癌での PD-L1 発現を調査し、予後不良例に PD-L1 の発現が多いことを見いだした点で評価できる。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。